

# 学校法人 東京経済大学

国分寺キャンパス 100周年記念館/東京都国分寺市

東京経済大学は、明治、大正期の実業界の雄である大倉喜八郎氏により、1900年にその前身となる大倉商業学校の創立により、その歴史が始まります。「進一層」を建学の精神に、120年を超える歴史の中で東京経済大学へと発展を続け、経済界をはじめ各界で活躍する多数の人物を輩出されています。

本事業では、指定避難所である100周年記念館に停電対応型GHPを導入。館内の空調や防災電源を確保することで、避難所としての機能強化を図られました。



東京経済大学 国分寺キャンパス 外観

## 補助事業の概要

- 導入設備: 停電対応型GHP20HP×3台
- 補助金額: 16,336千円

## 事業者様の声

### 補助金を用いた設備導入の経緯と効果

学校法人 東京経済大学 総務部 管財課長 井口 和幸様

本学の国分寺キャンパスは、自治体と連携して地域防災に関する取り組みを進めており、大地震や風水害が発生した際には「避難所」として施設の一部を開放するほか、医療救護をはじめとした地域の防災拠点となる「地区防災センター」としても指定を受けています。

そうした中、令和元年度には台風19号に対する措置として、自治体と連携した上で実際に構内に地区防災センターを開設した経緯があります。こうした取り組みと経験を踏まえ、「今後の設備整備においては、特に風水害に対する危機対応に重点を置いた考えが必要である」との考えを管財課として認識するに至り、災害時にも地区防災センターとして機能を維持できる設備導入について検討することになりました。

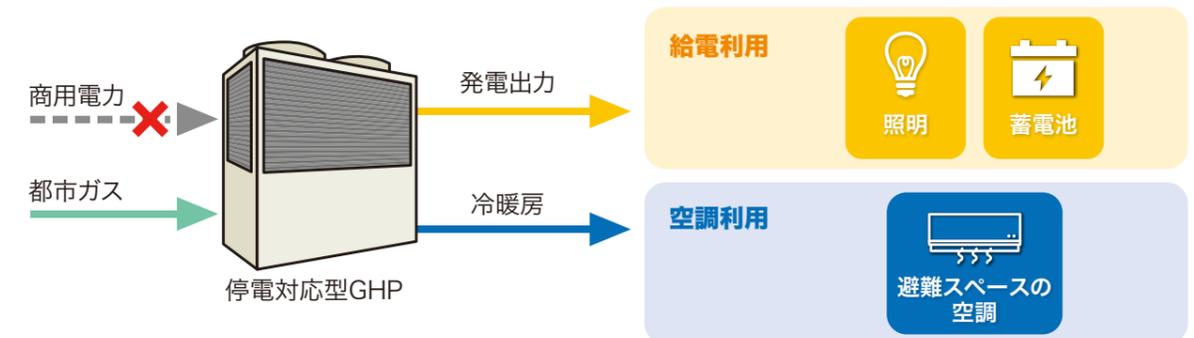
設備導入の対象施設としては、地域防災センターとして定められている「100周年記念館」に決定。同センターの運営に必要な災害用電源の整備にあわせて、当施設の問題となっていた恒常的な空調設備(容量)の不足について、並行させる形で検討を進めた結果、停電対応型GHPの導入を決めました。予てより、停電対応型GHPの商品特性等は知り得ていたものの、コスト面での対応が厳しいことからその導入が停滞していた経緯があり、今回の補助金により支援いただいたことで、ようやく導入するに至りました。

今回の事業により、地区防災センターという災害時の拠点機能としての電源確保に加え、何よりも自治体も熱望されていた大収容避難所に災害対応設備を設置できたことは、地域貢献につながったものと考えています。

また、言うまでもなく、教育環境の改善に資する常時における空調機能も整備できました。常時・非常時における環境・体制整備を同時に図ることができた点は、本事業の特筆すべきポイントであると考えています。

## 災害時にも貢献するエネルギーシステム

停電時  避難所の空調を継続使用しながら、照明や蓄電池へ給電し、地区防災センターの機能維持を図る



## 停電時の設備活用例

### 給電利用



蓄電池

非常用コンセントから蓄電池に給電

地区防災センターの運営に必要な機器等に給電し、地域の防災拠点としての機能を維持する

### 空調利用



避難スペースの一例  
100周年記念館/B1F 体育室

避難所となるスペースの空調の継続使用が可能

避難所に災害時にも対応する空調設備を整備したことで、地域貢献に繋がった

## 事業者様の取り組み

東京経済大学国分寺キャンパスは、自治体から「地区防災センター」の指定をされています(協定締結:平成23年4月)。震度5弱以上の地震や風水害が発生した際には、地域の避難場所・避難所・物資配布場所・情報伝達場所として、本事業で停電対応型GHPを導入された「100周年記念館」の1階アリーナや地下1階体育室の他、キャンパス内の施設において、約2,000人程の避難者を受け入れることが可能です。

キャンパス内には、避難者支援に必要な防災備蓄倉庫(計13棟)が設置されており、非常食、防寒シート、ストーブ、扇風機、投光器の他、テントや仮設トイレ等、多岐にわたる防災用品が備蓄されています。

また、給排水設備用に非常用発電機が設置されているため、飲料水はもとより、トイレ等の継続使用が可能です。